

議事等	議事要旨
市長挨拶	佐賀は低平地で有明海に面しており、古くから水と上手く付き合っていく宿命であることから、全国的にもモデルとなれる。これまでの取組みも活かしながら、更なる対策の強化を、あらゆる関係者が連携した流域治水の考え方のもとに講じていきたい。
委員長挨拶	気候変動と人口減少少子高齢化社会での災害対策、流域治水プロジェクトで、あらゆる関係者の協働で進めていく。佐賀市排水対策基本計画は、クリークを活かした水と緑のまちづくりとして、環境や景観に配慮した魅力的でサステイナブルなまちづくりを同時に考えていかなければと考える。
議事説明	<p>【事務局より 1)～6)の説明】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 目的とスケジュール 2) 佐賀市排水対策基本計画について 3) 浸水の現状 4) これまでの取組み 5) 取組み効果 6) 中長期対策の課題
質疑応答	
ワーキンググループ	<p>委員長) 検討委員会の設置要綱 第7条のワーキンググループの設置の趣旨、メンバーについて説明をお願いしたい。</p> <p>事務局) ワーキンググループは、より具体的な対策案を検討する場である。基本的には行政関係者がメンバーになる。開催に際しては、委員長の確認を取ったうえで開催する。</p>
外力規模	<p>委員長) 佐賀市は短時間の強い雨に弱いのではないかと考えている。1時間雨量と浸水戸数の相関があるのではないかと。どのくらいの短時間雨量でどこかどうなるのか、シミュレーションで傾向と対策が見えてくるのではないかと。</p> <p>事務局) 潮位の影響もあると思われる。多段階の規模での浸水の違いについても評価すべきと考える。</p> <p>委員長) 近年のモデル降雨を超える雨の発生頻度を考えると、モデル降雨がこのままでよいのかというもある。</p> <p>事務局) 目標降雨も検討していく必要があると考えている。</p>
浸水への影響や対策の方向性など	<p>森委員) 城東川調整池や城東川雨水幹線の整備にも関わらず、7月の大雨の際、市街地の浸水はなかったが、高木瀬地区では6cmの浸水があったのはなぜか。近年、高木瀬、城北団地の北、大和町のバイパス周辺はかなり宅地化されて田んぼや畑が減っている。その影響が高木瀬にあるのではないかと。</p> <p>事務局) 排水対策基本計画にある通り対策を実施してきている。高木瀬の城北団地周辺については浸水が頻発しており、佐賀市としても重点対策地区としている。農地を宅地化したことで、遊水機能が失われてきた可能性もある。開発に伴って、雨の降り方によっても浸水の特性が異なってくるので、そういうところもシミュレーションで見える化していきたい。</p> <p>委員長) 開水路が暗渠化されたことで、浸水に影響を与えているのではないかと。暗渠化率が浸水に影響があるのではないかと。窪地の地形的な特性に加えて調べた方がよい。外水氾濫が発生した場合の排水対策はどこが検討しているのか。やっていないのであればしなくてはいけないのではないかと。流域治水として、国・県・市と協力して排水計画を平時のうちに作っていく必要がある。</p> <p>事務局) 低平地である佐賀市の浸水対策は、一定の限界というのか、どんな対策をしてもなかなか効果が表れないところがある。どれくらいの雨でそういうことになるのかというのを検証しているところである。そういう中で、佐賀市が、国、県がさまざまな対策を打った時に、どのくらいの効果が発現できるか、ワーキンググループで検討して、その結果を委員会で示す。</p>

	<p>古賀委員) 外水氾濫を含めた影響については、嘉瀬川の多段階リスクマップで浸水の広がりなどを確認していく。その内容を含めて佐賀市と共有していく。内水対策についても国としても連携して取り組んでいく。</p> <p>ナルモン委員) 1点目、P42に対策前がないのはなぜか。2点目、短期対策後と中期対策後で48ha減っているが具体的にどこの場所が減っているのか。満遍なく減っているのか。</p> <p>事務局) 1点目、当時のモデルの再現ができないため、対策前110mm/hの計算ができない。2点目、市内全域で満遍なく若干浸水面積が軽減した形となっている。今回の資料では、浸水の面積のみで評価しているが、浸水深がどれだけ減ったか、浸水時間がどれだけ短縮されたかなど、具体的な効果は次回検討委員会までに提示する。</p> <p>武藤委員) シミュレーションとアンケートは、ブロック別に評価した方が良いのではないかと。その方が市民の方がどうかというのがわかりやすいのではないかと。</p> <p>事務局) 地域毎の集計は可能であるので、今後実施していく。</p> <p>委員長) まとめると、降雨特性と浸水戸数の相関、近年降雨を踏まえた目標外力、高木瀬地区への宅地化の影響と対策、短期的・中期的でどこで浸水が減っているのか、ブロック別の浸水状況とアンケート結果の整理分析、について次回までにワーキングの方で揉んでいただければと思います。</p>
<p>中長期対策の課題</p>	<p>森委員) 今回は佐賀市の対策を紹介されているが、流域治水という考え方は、国、県、市、我々関係者が連携して考えていくべきこと。それぞれが単独で考えても限界があるので、連携した全体で対策を検討した方がよいのではないかと。</p> <p>古賀委員) 国が管理している河川・導水路も含めて対策を検討していく。国としても流域治水の会議を設置しており、その中で、対策の考え方などを共有することも可能。また、規約的にも、委員長は必要がある場合、委員以外の意見を聞くことができるようになっていっているので、そういうなかでしっかりと意見等を聞いていけばよいと思う。</p> <p>満石委員) クリークの事前排水や蒲田津水門を早期閉門することで、佐賀江川の貯留ポケットを確保するが、河川に流入する前に内水が発生している。川に入る水路の改修が難しいのであれば、地下調整池なども考えられる。クリークの水門の開け閉めは以前に比べて早くなった。市民の皆さんは実感していると思うが、川に水を如何に早く届けるかが課題だと考えている。</p> <p>委員長) 佐賀市の流域治水はここでやらなければならないのではないかと。特定都市河川の検討を参考に、各ブロックで賄うべき貯留量を設定するのも良いのではないかと。</p> <p>事務局) 基本は流す対策を実施しているが、溜める対策についても対策を考えていく。実施可能な対策を考えていく。</p> <p>委員長) 実現可能な対策を総動員は擬人的なので、フル活用に変更した方がよい。</p> <p>鈴木委員) この検討委員会が佐賀市の流域治水を考える場になればよいと思う。浸水面積の減少だけでなく、いろいろな形で対策の効果を評価することも含め、計画の目指すところを議論していきたい。</p> <p>委員長) 方向性や考え方はよいと思います。</p> <p>事務局) 次回は11月頃を予定しています。</p> <p>委員長) 日程調整等は事務局に一任します。</p>